

令和3年度 第1回地域医療推進部会議事録

1. 日 時 令和3年10月22日（金） 第1回帯広市健康生活支援審議会終了後
19:40～20:20
2. 場 所 帯広市役所 10階 第2会議室
3. 出席委員 稲葉 秀一部会長、大滝 達哉 副部長、川上 義史委員、佐々木 修一委員、
住谷 晋 専門委員、澁谷 真由美 専門委員、小岩 幹専門委員

事務局：五十嵐参事、佐藤課長、三谷係長

4. 会議次第

- (1) 前回会議の議事録（案）の確認
- (2) 令和2年度 健康推進課決算について
- (3) 令和2年度 保健事業について
- (4) 令和2年度 休日夜間急病センター実績について
- (5) その他

5. 会議内容

○事務局

みなさま、こんばんは。定刻となりましたので、ただ今から、令和3年度第1回地域医療推進部会を開会いたします。

本日は、宇野委員から、欠席のご連絡がありました。

また、車谷専門委員から、10月1日の異動により退任のご連絡がありました。

なお、任期は来年8月迄ありますが、それまでの間は1名欠員とさせていただきます。

本日は地域医療推進部会、委員 8名中、7名のご出席をいただいております。出席人数が委員の過半数に達していますことから、部会は成立しております。

それでは、これより議事の進行につきましては、稲葉部会長にお願いいたします。

●部会長

それでは、会議に入らせていただきます。

最初に、前回会議の議事録の確認についてを議題といたします。この議事録は、この場でご確認いただいた後、公開される予定となっております。議事録につきまして、ご質問やご意見があればお願いします。

【質疑なし】

●部会長

よろしいでしょうか。無いようですので議事録は了承されたものといたします。次に、「令和2年度

健康推進課関係決算（案）について」を議題といたします。事務局から説明願います。

○事務局

令和3年度 健康推進課決算の概要について、ご説明させていただきます。

総事業費は13億7,431万4,015円でございます。

内訳ですが、まず資料左側、「保健衛生総務費」は決算額5億1,199万5,079円となっております。

主な事業といたしましては、「保健衛生推進費」として、難病連十勝支部の事業への補助、健康づくりガイド作成、AED 貸借、心身障害者歯科治療費補助などのほか、「食・運動改善推進費」として、食生活改善推進員と健康づくり推進員の養成及び育成、各種教室の開催等、また、「公衆浴場対策費」として、市内の公衆浴場の確保と活性化のための各種事業への補助、ふれあい銭湯事業補助等を実施いたしました。なお、健康まつりについては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から開催を中止にしたことから、運営費の負担は発生していません。

次に「訪問看護促進費」として、北海道総合在宅医療ケア事業団の会費、「健康増進センター管理費」として、大正と川西の健康増進センターの運営管理、「看護師等養成機関確保対策費」として、十勝管内19市町村で運営している高等看護学院の運営費分担金、市内に2箇所ある看護師養成機関に対する補助、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けた経済的理由により、修学の継続が困難になった学生に対する給付金の支給、「帯広厚生病院運営費補助」として、管内19市町村による帯広厚生病院の運営支援、「医療機関感染症対策費」として、防護服セット、マスク等の備蓄や、医療従事者の体制維持等のため、市内救急告示医療機関が行う環境整備等の取り組みに対する支援、すこやかネット事業、などを実施しました。

なお、妊婦・乳幼児健康診査費、母子保健相談指導費、心の発達支援事業費、食育推進事業費については、令和2年度より組織再編のため健康推進課関係予算として計上しておりますが、従前より児童育成部会で説明していることから、当部会においては、決算額のみお示すすることとさせていただきます。

次に、資料中央の「予防費」につきましては、決算額5億9,950万2,233円となっております。

主な事業といたしまして、「がん検診、健康診査費」として、各種がん検診、肝炎ウイルス検診、市民健康診査、骨粗しょう検診等に要する経費など、「予防接種費」として、各種定期の予防接種費用、「感染症予防費」として、65歳以上の高齢者等及び中学3年生、高校3年生に対する季節性インフルエンザ予防接種、65歳以上5歳刻みの高齢者等に対する成人用肺炎球菌ワクチン予防接種、エキノコックス症検査、新型コロナウイルス予防接種の体制整備を実施しております。また「結核予防費」として、結核検診、「健康相談費」として、保健師や栄養士などによる相談、「健康教育費」として、各種健康講座、スマートライフプロジェクトの推進、そして令和2年9月より健康マイレージ事業を行いました。

また、「自殺対策事業」として、生きるを支える連携会議の開催や、総合相談会の実施、「訪問保健指導費」として、保健師の個別訪問による保健指導などを実施しました。

次に、「夜間急病診療費」は、決算額2億4,063万967円でございます。

主な事業といたしましては、まず「休日夜間急病センター管理運営費」として、指定管理による休日夜間急病センターの管理運営を行っているものです。

次に、「救急医療対策費」として、在宅当番、二次救急医療、休日歯科診療業務、急病テレホンセン

ターなどの運営の委託、小児救急医療の補助を行ったものです。

最後に「保健福祉センター費」は、決算額2,218万5,736円となっております。「保健福祉センター」の管理運営に要する費用でございます。

数字横の、矢印表記につきまして、前年度決算対比での増減を表しております。細い矢印の5%未満の増減につきましては、前年度とほぼ同様のため、説明を割愛させていただきますが、太い矢印である5%~10%未満と、10%以上のそれぞれの増減につきまして、ご説明いたします。

まず、左上の「保健衛生推進費」につきましては、44.7%の減となっております。

こちらは令和2年度から、地方公務員法・地方自治法の一部改正により、これまでの嘱託職員等のうち、多くの職員が、会計年度任用職員に移行していることから、担当課で予算措置しておりました報酬等の予算が、職員給与費として人事課所管の予算に移行したことにより、減となっております。

次に、二つ下の、「公衆浴場対策費」につきましては、8.9%の増となっております。

こちらは、北海道の示す基準入浴客数に満たない市内公衆浴場に対し、ランク別に補助金を交付していることから、利用者数の減に伴い、補助金が増加したものとなっております。

次に、二つ下の、「健康増進センター管理費」につきましては、7.3%の減となっております。

こちらは、先ほど保健衛生推進費で説明した、会計年度任用職員の移行に伴い、人事課予算に移行したことにより、減となっております。

次に、資料中央の「予防接種費に」については、10.8%の増となっております。

こちらは、日本脳炎ワクチン接種者数の増などによるものです。

次に、「感染症予防費」については、64.0%の増となっております。

こちらは、高齢者のインフルエンザワクチン及び肺炎球菌ワクチン接種者数の増によるほか、新型コロナウイルスワクチンの接種体制整備によるものです。

次に、「結核予防費」については、22.6%の増となっております。

こちらは、緊急事態宣言に伴い、令和2年3月に予定していた集団検診を中止したことにより、令和元年度の受診者数が減少しており、前年度と比べてみると増となって見えるものです。

次に、「健康教育費」については、72.9%の減となっております。

こちらは、会計年度任用職員の移行に伴い、人事課予算の移行による減となっております。

次に、「自殺対策事業費」については、24.7%の減となっております。

こちらは、研修実施の効率化により、報償費や使用料等の減によるものとなっております。

次に、「訪問保健指導費」については、98.2%の減となっております。

こちらは、会計年度任用職員の移行に伴い、人事課予算の移行による減となっております。

次に、右側の「休日夜間急病センター管理運営費」につきましては、131.2%の増となっております。

こちらは、新型コロナウイルス感染症の影響による受診控え等により、利用者数が減少したことに伴い、9月・12月・3月と3回に分けて支援金を支給したことによるものとなっております。

最後に、「保健福祉センター管理費」については、45.4%の減となっております。

こちらは、会計年度任用職員の移行に伴い、人事課予算の移行による減となっております。

以上、令和2年度決算の概要でございます。

●部会長

ただいまの事務局の説明につきまして、何かご質問やご意見はございますか。

●委員

お聞きしたいのですが、決算書のところで、感染症予防費に、今回、新型コロナウイルスの予防接種費が新たにあったのですが、この内容というのはどういう内容なのでしょう。接種に係る薬液に係るお金のことを言っているのか、どういうものなのかをお聞きしたい。

○事務局

新型コロナウイルスに係る相談など、お客様からの問い合わせ等に対応するコールセンターを3月に設置しており、それに関する予算の増となります。

●部会長

感染症予防費の中の新型コロナウイルス予防接種費についての内訳の質問ですね。

予約のためにコールセンターを立ち上げてまして、そのコールセンターの事務に関わる、あるいは相談に関わる人件費、そういう委託費ということになります。ワクチンのお金が入っているわけではないということです。ワクチンの接種に関して、医療関係者、あるいは一般市民の方々への接種にご協力を得ながら行っていたと思うが、それも入っていないですね。

○事務局

予算としては、令和3年度になります。

●委員

要するに患者さんからは、ワクチンの個人負担は、今現在ないですね。

今後、第3回目という話になってますが、これは国の関係もあるから個人負担はまだわからないということですね。将来的にも、例えばコロナに関するお薬とか、色々これから開発されてくるが、そういうものに対する予算とか今後は出てきますか。例えば、今現在はワクチン個人負担なく無料になってますが、市の予防費として金額負担していくことは考えていますか。

○事務局

今の状況といたしましては、コロナワクチンについては、基本的には国の方でみているという形の話ですので、今現在で今後負担についての話はまだ出てないのかなと思っています。ただ、今後、国の方針が変わってくれば、そういう可能性もあります。

●部会長

今のところ、3回目のワクチンに関しても、もし行うとしても国が補償すると言っておりますので、それ以上のことは何もわからないということだと思います。それから、例えば薬であるとか、その治療に関わるものにつきましても、これが保険診療として認められることになれば、これは当然自分の負担になると思います。それからそうでない部分については、国の方からの補助で賄われると思いますが、そのところは皆目何も決まっていないというのが現状でなかろうかと思います。

私、先ほど勘違いしておりましたが、令和2年度にはワクチン接種は行ってはおりません。ワクチン接種が始まったのは令和3年4月以降ですので、令和3年度の決算の中に出てくる話になるかと思いますが、当然そこには先ほどのコールセンターの部分も出てくるでしょうし、あるいは接種に関わる費用であるとか諸々のものが、これは来年の話で出てくるのではないかと思います。

よろしいでしょうか。

●委員

はい。

●部会長

後は、いかがでしょうか。

●委員

自殺対策事業費24.7%の減となっている所、もう一回説明していただきたいのですが。

○事務局

報酬等あわせてやった形で効率化を図ったというところが、主な要因となります。

●委員

効率化ですね。3年度はまだわかりませんか。

○事務局

3年度の研修とか方針は基本的に同じように実施していきたいと考えておりますが、これからの計画、前段階になるので、まだわかりません。

●部会長

後は、いかがでしょうか。

よろしいでしょうか。

次に、「令和2年度保健事業について」を議題といたします。

事務局から、説明願います。

○事務局

令和2年度保健事業についてご説明いたします。

資料2の1ページ目の「1. 保健福祉センターの利用状況」をご覧ください。

事業等の利用状況であります。表の一番下に記載しています合計数の利用者の推移をご覧ください。令和元年度に比べ、令和2年度は利用件数で約21%、利用者数は約33%の減となっております。主な要因につきましては、新型コロナウイルスの影響により、予定していた事業の中止等により、利用件数、利用者数の減となっております。

各種相談の利用状況では、相談内容により多少の増減はありますが、子育てに係る相談件数が多く、合計では、例年より428人の増となっております。

次に、「2. 感染症などの予防」をご覧ください。

予防接種の実施状況は、ご覧のとおりとなっております。令和2年度は10月からロタウイルスワクチンが定期接種となりました。接種率については、後ほど資料2-1でご説明させていただきます。

結核検診の実施状況につきまして、15～39歳が結核検診、40歳以上が肺がん検診のX線検査の受診者数の計となっております。肺がん検診の新型コロナウイルスの影響による受診控えにより、

減となっています。

次に、2ページ目をご覧ください。

成人用肺炎球菌予防接種は、平成26年10月から定期接種化され、65歳以上5歳刻みの年齢の高齢者を対象に実施しております。令和元年度より70歳以上の方は2巡目の接種機会にあたることから、既に接種済みの方も多く、平成30年度と比較して接種者数が減少しております。

令和2年度の接種率につきましては、後ほどご説明させていただきます。

インフルエンザ予防接種は、中3、高3と65歳以上の高齢者等に対する接種事業を実施し、実績は記載のとおりとなっております。こちらも、接種率につきましては、後ほどご説明させていただきます。

エキノコックス症検診の実施状況については、小中学生については、ほぼ横ばい、一般については、減少傾向となっております。

お手元に配付の資料2-1をご覧ください。

まず、子どもの定期接種につきまして、BCGは新型コロナウイルス感染拡大の影響により令和2年3月から4月にかけて集団接種を中断した反動により、接種者数、接種率ともに増となりました。

生後の早い時期に接種を開始する、四種混合、ヒブ、小児用肺炎球菌、B型肝炎については、安定して高い接種率を維持しております。

麻疹風疹ワクチンは、1歳児と年長児が対象となっており、年長児には個別に勧奨通知を送付しています。令和2年度は接種者数、接種率ともに前年度対比増となりました。

HPVワクチンは令和2年11月に高校1年生相当の女子を対象にお知らせハガキを送付したことにより、接種者数は延べ185人で前年度の29人から大幅な増となりました。

日本脳炎ワクチンは、令和8年度まで接種対象年齢の経過措置が設けられており、生年月日によって接種期限が異なる状況にあります。帯広市では、令和元年度から小学校高学年の対象者に学校を通じてチラシ配布による周知を実施していることから、接種者数が増となっており、令和2年度は前年比1,003件の増となりました。

ロタウイルスワクチンは、令和2年8月以降に生まれた子を対象に10月から定期接種となり、延べ988人が接種しました。

中段のB類予防接種につきまして、高齢者の肺炎球菌は65歳以上5歳刻みの年齢で、過去に1度も肺炎球菌ワクチンを接種したことのない方が定期接種の対象となっております。

令和2年度の接種件数は1,948件で、前年度と比較して370件の増、接種率は4.4%の増となりました。接種件数が増となった要因としては、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、感染症に対する予防意識の高まりがあったものと考えております。

高齢者のインフルエンザにつきましては、高齢者人口の増により、対象者数、接種者数ともに、年々増加傾向にあります。

令和2年度は、新型コロナとインフルエンザの同時流行による医療のひっ迫を回避するため、厚生労働省等が高齢者に向けてインフルエンザワクチンの早期接種を呼びかけたことなどから、接種件数が大幅に増加し、接種件数は27,994件、前年度と比較して5,247件の増、接種率は10.1%の増となりました。

下段の任意接種につきましては、受験生を対象としたインフルエンザワクチン接種費用の助成については、少子化の影響により対象者数は減少傾向にありますが、接種率は33%前後で推移しております。資料2-1の説明は、以上でございます。

資料2の2ページ目中段、「3. 生活習慣病の予防」へお戻りください。

健康教育の実施状況については、新型コロナウイルスにより依頼が大きく減り、参加人数が減少しております。

ランチ&運動つき健診は新型コロナウイルスの影響で中止になりました。

糖尿病予防講座及び糖尿病重症化予防につきましては、令和2年度から対象者の基準や事業内容を見直しました。糖尿病予防講座を廃止し、対象者を変更して「血糖値改善講座」として開始したことから参加人数が増加しております。糖尿病重症化予防の保健指導につきましては、結果説明会を廃止し訪問や来所面談による個別の保健指導を拡充したことから、実施人数が増加しております。

令和2年9月から、新規事業で歩数計付きスマートフォンアプリを活用した「健康マイレージ」事業を開始しました。目標の1,500人を上回る、2,230人のダウンロードがありました。

働き盛りの健康づくりの推進を行う、スマートライフプロジェクトの登録企業は12社増えて90社となりました。

健康相談については、新型コロナウイルス感染症に伴う健康相談が大きく増加となっております。

3ページをご覧ください。

訪問指導につきましては、新型コロナウイルスの影響により、訪問数が減りました。

検診の実施状況であります。受診者数は、ご覧のとおりとなっております。受診率につきましては、この後、資料2-2でご説明させていただきます。

お手元に配付の資料2-2をご覧ください。

がん検診については、前年度と比べると、新型コロナウイルスの影響等による受診控えにより、受診率が減っております。資料2-2の説明は、以上でございます。

資料2の3ページ目 (6)35~39歳健診(市民健診)・健康診査の保健指導にお戻りください。

検診・検査の実施状況検診事後指導については、令和2年12月健診受診分の受診勧奨から新型コロナウイルスの対応として、受診勧奨値に関する病院受診をしていることが確認された対象者は受診勧奨から除外したと、3月の集団健診を中止したことにより、令和元年度と比べて実施数が減っております。

4ページをご覧ください。

「自殺対策」につきましては、関係機関や団体等を対象に「ひきこもりに関する家族支援」をテーマに、多分野合同研修会を開催いたしました。

その他にゲートキーパー養成講座やSOSの出し方教室、総合相談会を実施しました。

携帯電話を利用したメンタルセルフチェックシステム「こころの体温計」はアクセスが大きく減少しております。

最後に、「5. 救急医療体制に関する実施状況」であります。帯広市では、夜間・休日等における医療不安の解消と急病患者に対処するため、休日夜間急病センター運営事業や、医療機関の協力をいただき、在宅当番医制や二次救急医療体制を確立しております。利用状況等につきましては、ご覧のとおりです。

このうち、(4)急病テレホンセンター案内状況の合計では、2,112件が減少しておりますが、スマートフォンで医師会のホームページから情報を得ている方が多くなっていることが考えられます。

令和2年度保健事業についての説明は、以上でございます。

●部会長

ただいまの事務局の説明につきまして、何かご質問やご意見はございますか。

●委員

お聞きしたいのですが、資料の2の保健事業実施状況の5番目の救急医療体制について、休日夜間急病センターが令和2年度5,081件となっているが、平成30年度16,054件、令和元年度15,012件で、一万位減っているが、実質減っていることは分かるけど、数字的にどうしてこんなに違うのか教えてほしい。

●部会長

資料の3に具体的な詳細が載っております。

そこで、事務局より説明があろうかと思いますが、コロナの影響だと理解して良いと思います。

それ以外はいかがでしょうか。

なければ、私の方から一つだけ、資料の2の1、A類予防接種の対象者というのは当該の年齢の人ですよ。

例えば、この間の前回問題になりました麻しん・風しんの混合ワクチンの接種率が前回90%減ったということで非常に大きな問題になったと思います。それが今回はほぼ100%ということですね。

○事務局

はい。

●部会長

これは、対象者は当該の人で延べ接種者となると。いわゆる当該の5歳え打てなかったから6歳になって打った人、そういう繰り越しになってる人も入っていますか。

○事務局

実際にはそうですね。

●部会長

前回、この会議の時に、これはずれた場合に公費負担がどうなるのかという話だったと思う。あまりにも低いので、打てなかった人が翌年でも公費負担でも打てないでしょうかという意見が上がっていたと思うのですが、その辺はどうですか。

●委員

前回は結局そのままだったと思うのですが、年度なので小学校が前年度の人が年度で切れる。1歳の子は1歳になった日から2歳の前日まで打てるので、それでちょっとうまくきれいに出不いというのがあったと思う。年度切ると多少増減が出てくるのかなと。

●委員

今の話の流れで行くと、令和2年度、全部のワクチンが上がっているのは、いわゆるワクチンに対する考え方が少し変わったという意味なのでしょうか。今までワクチン打たないと思っていた人が打ってもいいかなという風に世間の風潮が動いたということなのではないでしょうか。

●部会長

ヒトパピローマウイルスについては国の方針が変わりましたので、これは明らかに変わったが、それ以外、軒並みワクチンの接種率が良くなってますよね。その理由があるなというところではないかと思えます。

○事務局

周知方法が変わったり特にしておりませんので、おっしゃるような推測はできるかと思うのですが、直接その理由をお聞きはしていないので、推測以上のことは言えないかなと思えます。

●部会長

令和2年度ですので、B類の予防接種については、例えばコロナであるとか、その影響は重々配慮できると思う。だけどA類の予防接種については通年で動いているはずですので、この年のコロナの影響が出てるのは令和2年1、2、3月ですよ。その3か月ぐらいで、一変にこんなに増えたとは思えないです。ですから、令和2年度は、4月からけっこう色々努力されたのかなという思いもあるし、逆に年度末になるとコロナの受診者は例年より減ったのではないかと思えます。だけどトータルで見ると、非常に良いのでどうしてなのか。たぶん、みんな同じことを考えていると思うのです。データの取り方に何か差がないかとか。その辺について、この次でよろしいですので教えていただければと思います。普通の接種率でいって99.9%って、麻しん・風しんであり得ない数字です。B類とかは、このままなのでしょうけども。そこだけお願いしたいと思えます。

○事務局

麻しん・風しんは低いと前回もお話があつて、検診等では保健師は積極的には今までもやっていたけれども、より声掛けをして頂こうと思えますが、どうしてこれだけになったのか、今のところ分からない状況です。

●部会長

もう一つだけ、資料の2ですけれども、エキノコックスの話なのですが、小中学生がこの検診を受けるというのはどういう理由があるのか。毎年、何人が受けられているようですが、受けられた背景はなにかありますか。大人なら、なんとなく理解できるのですが、いわゆる親と一緒に受けるような形なのですか。

○事務局

小学校3年生から過去5年間受診していない者が受診対象になっているのですが、この小中学生3名について、なにか特別な理由があつて受けに来たかどうかまでは調査していません。

●部会長

もし、機会があつたらお願いします。

●委員

資料2の4ページ、救急医療体制の二次救急について、ここで質問しても大丈夫でしょうか。二次救急及び医療機関の患者数が軒並み減少していますが、これについての何か要因等、考えてい

らっしゃいますでしょうか。急病センターですと、おそらくすごく軽症で、がまんできるからと思うのですが、二次救急となるとどうなのでしょう。

●部会長

二次救急のいわゆる3か月位の間ですよ。コロナの1、2、3月の間の数字だと思うのですが、激減しました。二次救急の受診者、おっしゃる通りです。それがこの数字になっています。

●委員

それは背景として何かあるのですか。

●部会長

呼ばないのです。もっと言うと救急車の利用者数が減りました。

●委員

ということは、今までは呼ばなくていい人達を読んでいたという事ですか。

●部会長

かなりあると思います。

●委員

もう一方で、人口構造と発病率とか発症率と合うのだったらいいのですが、そうじゃないとなると、不必要な救急要請というのがあったというのが逆に増えていくと、適正な配置がどうなのだろうというのが見えてこない。まだ多分、分析されていないのでわからないと思いますが。

●部会長

はっきりして言えることは、例えば、後ほど急病センターの話が出ると思うが、急病センターへの救急車の搬入件数、搬出件数、これは患者様のトータルの数ではない。だいたい前年度の7割位か8割位なのです。ですから、実際にコンビニ受診といわれるような方以外の方の利用者は、それなりにちゃんと動いています。それから二次救急の医療機関においても三次救急の医療機関においても、これまでの利用者を見ると、必ずしも二次、三次に該当する患者様以外の初期救急の方々がかなり多く受診しているという数字で出ています。ですから、その人方が減った可能性も一つあると思います。

あと、例えば、ここには内科系だけではありません。外科系の患者さんの数も全部入ってくるわけで、正直、一次救急における外科系の患者様の数はあまり変わってなかったですね。何が変わったかということ、小児の患者さん方がほとんど動かなくなりました。そこに入っている部分、多分その辺のところが多いと思います。

●委員

個人的には、コロナ関連でいうと外出しなくなったので、転倒骨折とか頭部外傷とか、高齢者の人が減っているのではないのでしょうか。

●委員

あまり変わっていない。

●委員

ということは、必要な人の数が出たということですか。

●委員

それはありません。特にこれが必要だったのかなという数は出たかなという印象で、数字的に激減したという印象はもってないです。

●部会長

いわゆる救急医療とイメージすると、即、急性感染症という頭が殆どあると思います。ですから、その部分は減っていると思います。だけど、急性感染症に該当しないような方が、実際にこちら辺を利用している実態ではないかと思えます。急性感染症においては、本来は受診した方がよかった方も逆に言うと受診抑制が入ってしまって、色んなことが出てきた可能性があると思います。その辺の正しい数字がどの辺かとなると何とも言えないと思います。

●委員

ありがとうございました。

●部会長

他になければ、質疑を終了いたします。

次に、「令和2年度帯広市休日夜間急病センター実績について」を議題といたします。

事務局から、説明願います。

○事務局

お手元に配付の資料3をご覧ください。

休日夜間急病センターは、平成26年度に新築移転し、休日と夜間の初期救急を指定管理により運営しています。

令和2年度の患者数の実績につきましては、夜間は、年間合計で2,541人と、前年度の約40%、下段の休日につきましては2,540人で、前年度の約29%となっております。

夜間・休日共に患者数の減少につきましては、新型コロナウイルスの影響による、受診控えによるものが、主な要因となっております。

休日夜間急病センターの運営にあたっては、「運営専門会議」を設置しており、継続的に検討協議を行っております。説明は、以上でございます。

●部会長

委員の方から先ほどご質問がありましたけれども、これは見ていただければわかると思います。例えば令和元年度の休日について、令和元年度の1月、2月まではコロナの影響がなかった時で、3月はコロナの影響が出た時となります。そうすると、休日の上、見ていただければと思いますけれども、それまでは1日平均150から250の間の患者さんが受診していたのですが、一気に1日43人に減ったのです。2月から3月までも同じです。それでは、この間のこの理由は何か、ということにな

ろうかと思うのですが、夜間についても同じです。令和元年度の2月、それまでは1日平均22.7名が受診していたが、3月になったら一気に8.5名になった。この間にあったことは何かというと新型コロナウイルスの感染の拡大、あるいは感染の始まりだった。これだけの影響が出るのが救急医療の現場です。

あの時あったのが、発熱者は受診しないようにとか、逆のアナウンスをしましたし、元々が救急医療に対しては、コンビニ受診を止めてくださいと、行政あげての広報をしている中において、徐々に数が減ってくるのは適正医療で良いことです。ただこういう事が起こると、これだけ行動が変容するのだと思っていただければと思います。それが、どうしても何か何もないのが事実です。その数が令和2年度も同じように1年続いたということです。それは感染の拡大が同じように続いているのは皆さん見ればわかると思います。社会生活の制限もそれに見合うようになった数字だったと思います。

●委員

12月、1月、2月は明らかにインフルエンザがありますよね。令和元年は普通にインフルエンザ流行したけど、令和2年は全然ない。12月、1月、2月が1,000人超えているのが、100人、200人と、そこはかなり影響がある。それと、本当に健康に気を遣って風邪ひかなくなったという部分は一面としてあると思います。それともう一つは、もしかすると、熱あるから休日に行って薬もらって解熱剤飲んで明日仕事に行こうという習慣が過去にはあったと思うが、去年は熱下がるまで出社するなということで、昼間病院にちゃんと行くという、夜間とか休日は使わないという風に行動が変わったような気はしますよね。自分で考えると、やっぱり無茶しなくなった。あんまり寝不足しないとか、無理してちょっとだるい時は無理しないみたいなことは確実に1年間そういう生活しましたからね。病気になるという感じの生活習慣ではなかったですね。

●部会長

これは救急医療の場ではなくても通常の診療、昼間においても小児科を受診する患者さんの数、耳鼻科を受診する患者さん数は半減しています。色々なところにコロナの影響が良い悪いは別として出ています。特に医療の現場では非常に大きなものが出ております。

いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

●委員

はい、わかりました。

●部会長

それでは、ただいまの事務局の説明につきまして、これで終わりにしたいと思います。よろしいでしょうか。

●委員

【質疑なし】

●部会長

次に、その他について、委員の皆様から何かありますか。

●委員

コロナ関連で自殺者とか、いま実際関連して増えているのかどうか。今後、何か対策とか考えていらっしゃるのかお聞きしたかったのですが。

●部会長

先ほどの審議会でもその話出なかったかと思うのですが。

○事務局

自殺者数でいきますと帯広市につきましては令和元年度24名の自殺者だったのですが、昨年、令和2年度については36名ということで増えております。一概にコロナの影響というのは難しいかもしれませんが、社会的背景といえますか、やはりコロナの影響によるもの大きいと考えております。

次にどういう対策をとっているかというようになりますと、これまでもやっていますが、相談とかそういう体制をとっていくことで今現状としては考えております。

●委員

過去5年位比べても、ちょっと上がっているのですか。

○事務局

過去5年ということですと、平成28年は43名、平成29年は減りまして25名、平成30年は30名、そして令和元年が28名というところで、平成28年は43名が多かったのですが、それ以降、平成29、30、令和元年と30名弱で推移しており、令和2年で36名となっています。

●委員

それは増えているということか。

●部会長

流れでいうと、少し増えているという経緯ですよ。

●委員

新聞の報道では、全国ベースでいくと、子供の自殺増えてると言ってますよね。あと、確実にデータが出てくるのは、失業率と自殺数は相関関係があるという話なので、失業率はこの課とはあまり関係ないけど、帯広市全体で行くと、トータル的な取り組みというのにも必要なのかもしれないですね。

●部会長

よろしいですか。

●委員

はい。

●部会長

あとはいかがでしょうか。なければ、事務局からお願いします。

○事務局

次回の地域医療推進部会の日程につきましては、例年2月に予算等をご説明するため審議会の日程と併せて設定させていただいているところであり、具体的には稲葉部会長と調整のうえ、委員の皆様にご案内させていただきますので、よろしくお願いいたします。

●部会長

以上で予定されている議事は終了いたしました。

本日は、これで閉会といたします。

お疲れ様でした。